

園だより

第 6 号

平成 2 8 年 8 月 2 2 日



親の後ろ姿を見て育つ

米森 久仁子

夏休みは、親子でゆっくりお話ししたり、親戚の方と久しぶりに会ったりして、「こんにちは」「おじゃまします」「いただきます」「ありがとうございます」「またいらしてください」など…生活に必要な挨拶やことばが交わされる場面が多くあったことと思います。その場にあった挨拶が、子ども達の耳に自然に入ってきて、人との関わりを円滑にしていく様子を見て大切な学びの場となっていたことでしょう。実際にいろいろな人と笑顔で挨拶を交わし触れ合う実体験が貴重であり、思いが通じた喜びを味わうことでお話ししたいという気持ちが育ち、社会で生きていくための力であるコミュニケーションの楽しさを感じていくのだと思います。子どもは大人が言葉をどう使い行動しているのかをモデルにしています。親（大人）の姿をみて真似て、親（大人）の後ろ姿を見て育っているのです。

最近目にした光景ですが、公園でお父さんやお母さんがスマホを操作しながらお子さんを遊ばせており、せっかく親子で来ているのにそれでは子どもが外で遊ぶ楽しさも半減してしまうのではと感じました。お子さんと一緒に遊ぶことを優先して、ことばを掛けてきたときは子どもの目線になって目を見て話してあげたり、聞いてあげたりして親子で遊ぶ楽しさを共有していくことで、今は“あなたとの時間です”と伝わりお子さんも安心してお話ししてくれるでしょう。そして、親子で会話のキャッチボールをしていくことで信頼関係も築かれコミュニケーションがとれる大人になっていくことと思います。また、温かい言葉を掛けてもらい、自分を受け入れてくれる嬉しい気持ちも心に刻まれ、豊かな感性を育むことにつながっていきます。

また、夏休み中は親子の時間をいつもより余裕を持ってとれて、おうちの事を一緒にする機会も多かったのではないのでしょうか。新たに出来るようになっていくことを発見されたり、一緒に協力して作業をすることを楽しんだりする中で成長を感じられる場面もあったのではないかと思います。例えば、洗濯物を干す・たたむ・お料理の盛り付けや食器の準備や片付け、テーブルを拭く、部屋の掃除など…お手伝いをしながら、お台所の仕事等家事を見せてあげることで、家族と一緒に過ごせる幸せやお父さんやお母さんへの感謝の気持ちが生まれていくと思います。そして、お手伝いに興味をもってくれた様子が見られたらそのチャンスを見逃さずに「〇〇を手伝ってくれるの。嬉しいわ。」とお子さんの目を見て微笑んであげてください。お手伝いをすることで、喜んでもらえる嬉しさや働く楽しさ、やり甲斐や達成感など味わえます。また、親の生活する姿を見せることでお子さんの生きる力へとつながってくることでしょう。

身の回りのことが自分でできるようになっていき、生活のリズムが整っていくようにしてあげることで、自分自身が気持ちよく生活でき、心も安定していきます。そして、生活の基本ができていくと自然と意欲が高まり、次にすることへの見通しがついていろいろなことに興味をもち学びの芽が生まれ、自分で考えて行動できるようになっていくことでしょう。